



イメージパースは実際と異なる場合があります。

1 全体コンセプト

「街なかスタジアム」の実現

1. 開かれた回遊型スタジアムパーク

中央公園全体の空間づくりとして、広島城や旧広島市民球場跡地とペDESTリアンデッキでつながり、本川（旧太田川）の水辺空間との連携を行うことで、新たな回遊空間を生み出し、紙屋町・八丁堀地区ともつながる、にぎわいのある開かれた「街なかスタジアム」を実現する。

みんなで作るサッカースタジアムの実現

2. スタジアムパークがつなぐ『交歓の環』

スタジアムの多機能化と広場エリアの複合化との連携を図り、多様な世代・属性の方が新たに集う場となることで、『交歓の環』を広げ、「みんなで作るサッカースタジアム」を実現する。

広島らしさの発信

3. みんなのシンボルとなる『希望の翼』

スタジアムを柔らかく包み込むような「翼」をモチーフにした大屋根と、広島のある都市景観に配慮し、水平線を強調したファサードによる、新たな「広島らしさ」を発信する。

2 全体整備方針

サッカースタジアム

- 約30,000席を確保し、天然芝のフィールドとする。明確なエリア設定・セキュリティ機能により、リーグやアマチュアだけでなく国際試合の開催にも対応可能とする。サッカーでの利用がメインとなるが、スポーツイベント（ラグビー・スポーツ教室・ヨガ教室等）などにも対応できる複合的な機能を併せ持つ施設とする。

また、防災備蓄倉庫等を整備し、災害時の避難者や帰宅困難者等の受け入れに対応可能な計画とする。

広場エリア・ペDESTリアンデッキ

- 広場は平和軸を尊重した園路形状（ピースリンク）や植栽配置などにより、広島のある歴史を次世代へとつなぐデザインとする。

また、中央公園広場は、地震、大雨洪水及び大規模な火災等の際の指定緊急避難場所として防災機能を有する。

- 南側の平和記念公園や東側の広島城などの周辺施設をつなぐ動線を確保するための各箇所にペDESTリアンデッキを新設し、地域の回遊性の向上を図る。



スタジアムと広場をつなぐダブルコンコース(コンコースを2層化)による遊環構造

主な特徴

【大ききまちに開かれたスタジアム】

新スタジアムは南東、南西側に大きな開口を持ち、周囲に開く形態により、にぎわいを街に向けて発信する。

【誰もが快適に安心して楽しめる観戦環境】
多様な観客席、企画席をスタジアム全体に設け、様々なサッカーファンに楽しい観戦スタイルを提供する。車いす使用者、障害者、高齢者、子供連れ利用者が安心して楽しめる観戦環境を整備する。

【開放的で軽やかな屋根】
シンボルとなる屋根は、「三矢の教え」をモチーフに矢を放つ弓のような張弦構造を採用し、開放感のある翼のような形態とする。

【次世代観戦環境を実現する設備】
指向性の高いスピーカーによる音響環境、国際水準の均斉度を誇る照明計画、情報設備インフラに対応する。

【回遊型スタジアムパーク】

コンコースを2層化することで、利用者・市民の回遊性を高める。スタジアム2階の「パークコンコース」は、日常的に市民が楽しむ動線とし、3階の幅10mの「メインコンコース」は、試合時には周回が可能な観客のメイン動線となる。

【開放的で軽やかな屋根】
シンボルとなる屋根は、「三矢の教え」をモチーフに矢を放つ弓のような張弦構造を採用し、開放感のある翼のような形態とする。

3 整備計画概要

敷地概要

所在地：広島県広島市中区基町15(中央公園広場)ほか
敷地面積：中央公園広場全体:約85,600㎡

- ・防災公園 広島市地域防災計画に基づく指定緊急避難場所
- ・地盤レベル 広場中心部の地盤レベル T.P.+4.4m超
- ・その他整備事項 ビオトープ・ドライミストの整備等

A-1 サッカースタジアム

概要:約3万席のサッカースタジアムを整備

- ・主要用途 サッカースタジアム(屋外観覧場)
- ・敷地概要 敷地面積 約49,900㎡
- ・建物概要 建築面積 約26,700㎡
- 延べ床面積 約60,000㎡
- 階数 地上7階
- 最高高さ 約42m
- ・駐車場等 駐車台数 約240台
- バイク置場 約300台
- ・構造 鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造
- スタンド：PCa段床
- 屋根：ガルバリウム鋼板フッ素樹脂塗装
- 基礎種別：杭基礎(既製杭)
- ・座席数 約30,000席(車いす席300席)
- ・コンコース 2階・3階とも幅員約10m(一部約8m)

A-2 広場エリア(基盤整備)

概要:スタジアムを除く公園区域の東側及び西側に芝生広場を中心とした広場の基盤を整備

- ・整備面積 約35,700㎡
- ・芝生広場面積 約12,000㎡
- ・園路幅員 6m以上(メイン園路) 8m(ペDESTリアンデッキからの動線部)
- ・舗装仕上 透水性脱色アスファルト、ウッドチップ敷き等

A-3 北側市道(中1区88号線)

概要:幅員4mの歩道を整備

B 東側ペDESTリアンデッキ

概要:国道54号を横断するペDESTリアンデッキを整備

- ・有効幅員 8m(東側)、4m(北側)
- ・桁下高さ 5m以上
- ・整備項目 階段、スロープ、EV

C 南側ペDESTリアンデッキ

概要:中1区中広宇品線(城南通り)を横断するペDESTリアンデッキを整備

- ・有効幅員 10m
- ・桁下高さ 5m以上
- ・整備項目 階段、スロープ、EV

D 駐輪場

概要:約2,500㎡の自転車駐輪場を整備

E 園路(ファミリープール東側歩道)

概要:幅員6m以上の進入路及び幅員2.5m以上の歩道を整備

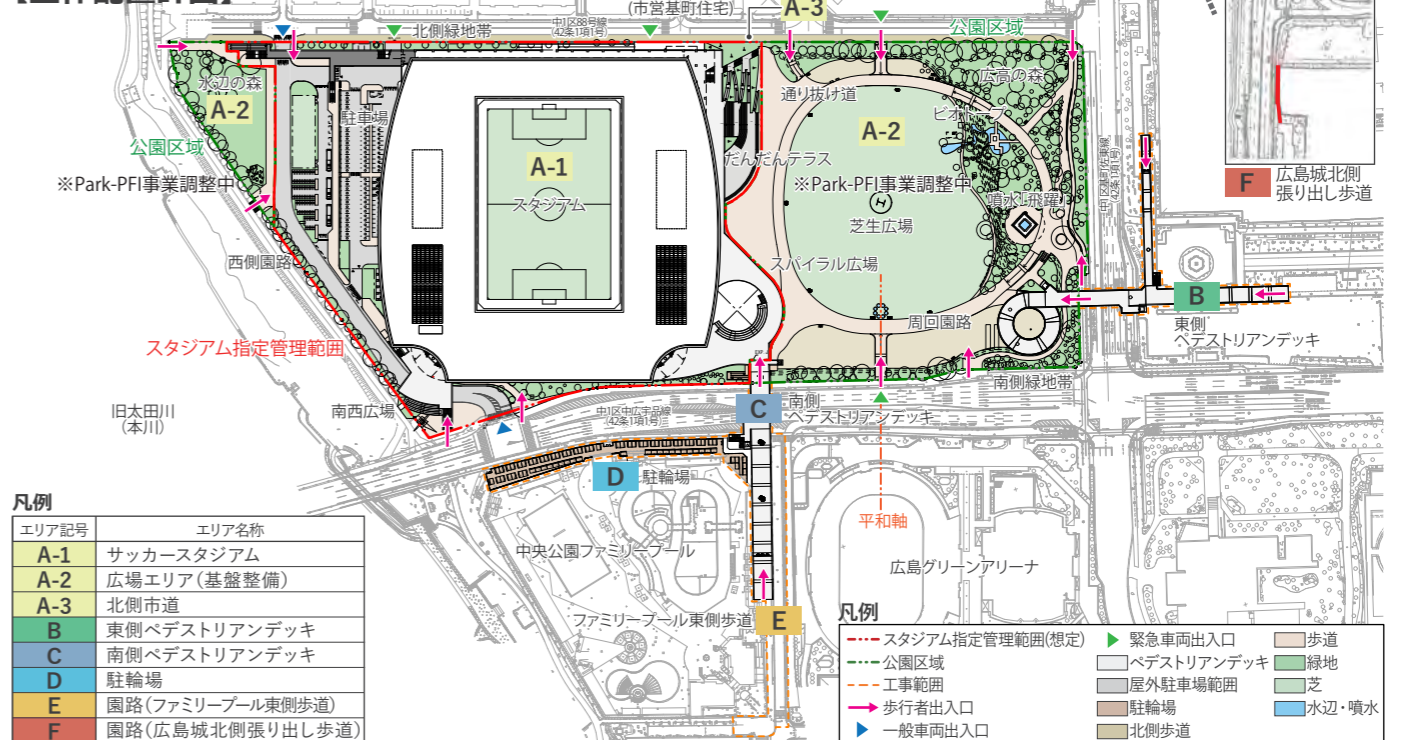
F 園路(広島城北側張り出し歩道)

概要:幅員4mの歩道を整備

その他:渝華園(移築)

概要:既存建築物の移築

【全体配置計画】



凡例

エリア記号	エリア名称
A-1	サッカースタジアム
A-2	広場エリア(基盤整備)
A-3	北側市道
B	東側ペDESTリアンデッキ
C	南側ペDESTリアンデッキ
D	駐輪場
E	園路(ファミリープール東側歩道)
F	園路(広島城北側張り出し歩道)

---	スタジアム指定管理範囲(想定)	▲	緊急車両出入口	■	歩道
---	公園区域	■	ペDESTリアンデッキ	■	緑地
---	工事範囲	■	屋外駐輪場範囲	■	芝
→	歩行者出入口	■	駐輪場	■	水辺・噴水
▶	一般車両出入口	■	北側歩道		

※基本設計時の計画であり、関係機関や広場エリアのにぎわい施設を整備するPark-PFI事業者との協議などにより変更となる場合があります。

4 サッカースタジアム

【平面計画】

観客席

- 合計で約30,000席を確保する。
- 各エリアに求められる機能を最適化した構成により、ゲームの臨場感・躍動感を最大限に体感できる場を実現する。
- 座席はゆとりのある寸法とする。
- 多様な種類のバラエティシートを配置し、あらゆる人が楽しめる計画とする。

コンコース

- 2階、3階のダブルコンコースによりスタジアム内外の回遊性を高め、にぎわいの場を生み出す。
- 公園全体の主動線となる2階「パークコンコース」は本川と広場をつなぎ、まちに開かれた空間構成とする。
- 3階「メインコンコース」は安全な回遊のため概ね幅10mを確保するとともに、様々な場所からピッチを望むことができ、自由な観戦スタイルを実現する。

ホスピタリティ

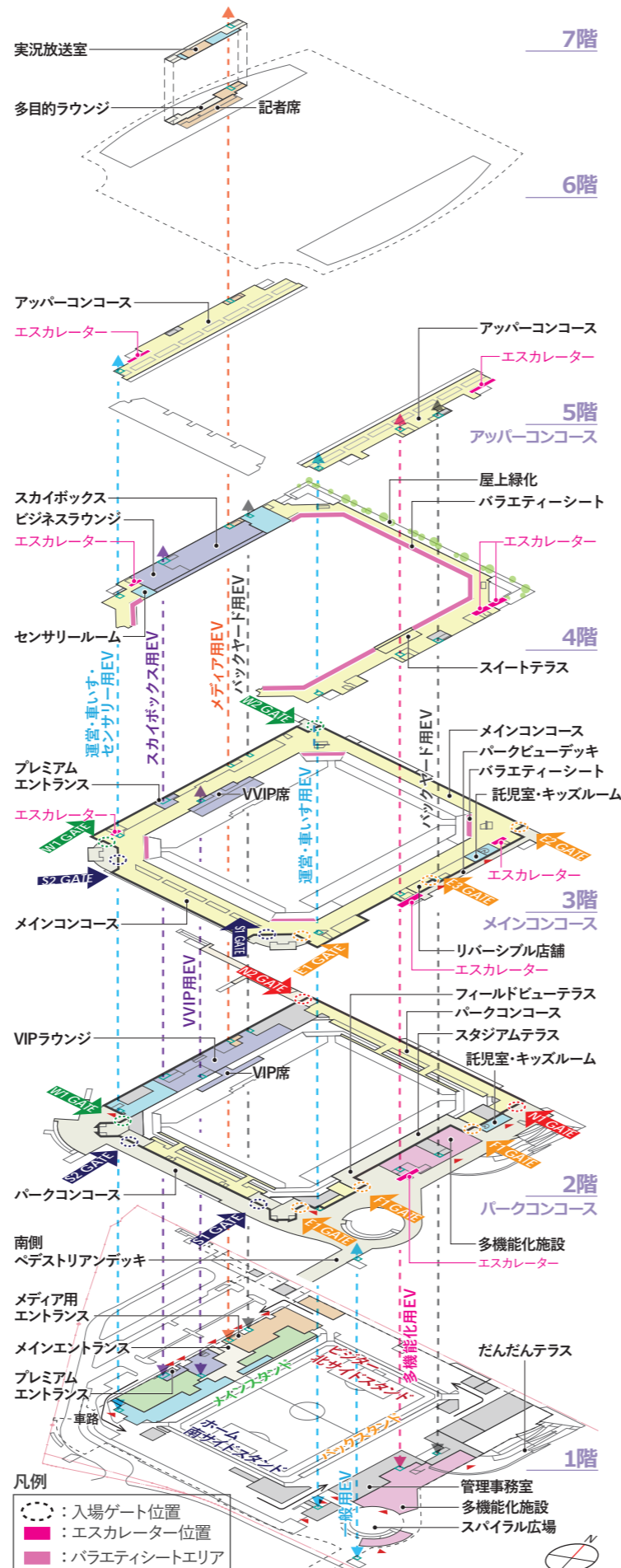
- 試合開催時はチーム関係者とVIP等の各動線を明確に分ける。
- 管理・運営諸室やホスピタリティ諸室を会議室やイベントスペースとして貸し出し可能な計画とする。
- 災害発生時は避難場所等に利用可能な計画とする。
- 車いす席は主に3階メインコンコースに配置するほか、様々な位置から観戦を楽しめる計画とする。

演出技術

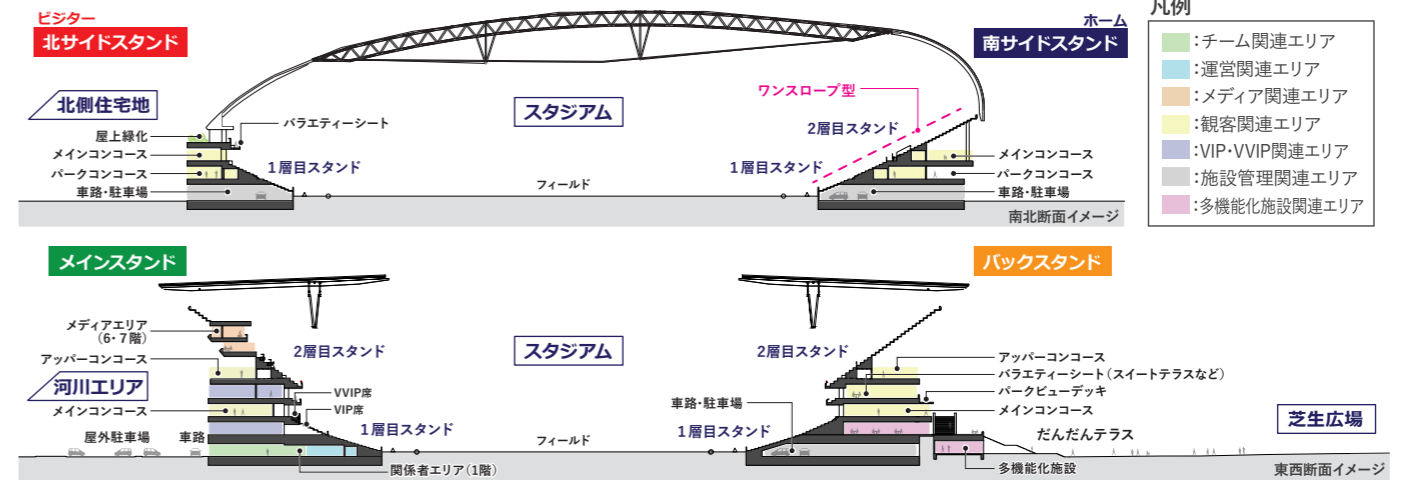
- フルハイビジョン仕様の大型映像装置と帯状映像装置等を設置し、多彩で躍動感のある観戦環境を創出する。
- 国際水準の均斉度を誇る照明計画とし、選手へのグレアを抑制し、観客・TV中継への視認性を高める。
- 張弦梁に沿って指向性の高いスピーカーを設置し、高均斉度の音響環境を提供するとともに周囲への音漏れを低減する。
- 観戦環境の進化にも対応可能な映像・情報設備インフラを整備する。

多様な利用

- 3階「メインコンコース」は試合開催時には観客の主動線や飲食スペースとして、試合非開催時にはランニングコースやスタジアムツアーコースなどとして、通年利用が可能な計画とする。
- 2階「パークコンコース」は試合開催時には入場ゲートをつなぐ待機スペースとして、試合非開催時には広場と本川をつなぎ、日常的に回遊性を高める。
- 1階、2階「多機能化施設」は試合開催時には飲食サービスやグッズ販売の中心となり、試合非開催時にはミュージアム、スタジアムツアーの拠点となる。飲食を始め、憩いの場として人々が集う施設とする。
- 「フィールド」はメインとなるサッカー以外にも、スポーツイベント(ラグビー・スポーツ教室・ヨガ教室等)など、多目的な利用に対応する。
- 「VIPラウンジ」や「スカイボックス」などは、試合非開催時に会議室やイベント空間として利用が可能な計画とする。



【断面計画】



【観客席計画】

- ファミリー等のグループやペアに対応したバラエティシートは、4階各スタンドを主に計画し、1層目スタンドの各コーナー部もペアシートなどを配置する。また、キッズルームを近接した位置に配置することで、子供を見守りながら観戦できる計画とする。
- センサリールームは、感覚過敏の特徴がある子どもたちとその家族が安心して観戦できる部屋とする。
- VIP・VVIP席は、2階メインスタンド中央に設け、高質な観戦環境に配慮する。
- スカイボックスは、4階メインスタンド中央に設け、可動間仕切りにより拡張可能な個室(最大12室)と、自由に入出可能なラウンジを設ける。
- ビジネスラウンジは、スカイボックスに隣接して設け、可動間仕切りなどで様々なニーズに対応可能な空間とする。
- 4階バックスタンドには、バルコニー席後方に専用個室のあるスイートテラスを配置する。
- 移動観覧席(スタジアムテラス)は、バックスタンド1層目に設け、様々なイベントに対応できる設えとする。



5 環境・省エネルギー計画

独自技術を結集した先端エコスタジアム

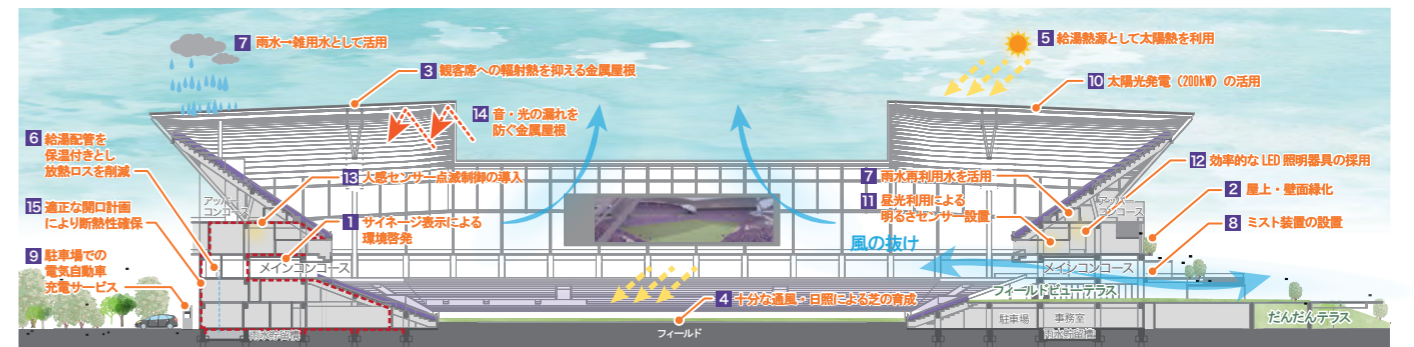
- BELS★★★★★、ZEB Ready、CASBEE S ランクを達成
- SDGsを見据えた国際基準となるスタジアム
- 自然エネルギー利用をサイネージに表示し来場者への環境啓発 1

周辺環境配慮に関する考え方

- 騒音抑制:北側住宅地への音漏れを最小化する外装計画 14
- 光害抑制:周辺建物への光害を抑制する屋根計画 14
- 振動抑制:シミュレーションによる周辺への配慮

自然エネルギーの最大活用とサステナビリティを追求したスタジアム

- 環境負荷に配慮した屋上・壁面緑化 2
- 観客席への熱負荷と騒音を抑える金属屋根 3
- 季節により風を適切に誘導し、観戦席環境を整える外装計画 4
- 給湯熱源として太陽熱を利用 5
- 保温給湯配管による放熱ロス削減 6
- 雑用水使用量の約50%を雨水再利用水で活用 7
- ミスト装置により夏場も快適さを提供 8
- 駐車場での電気自動車用充電サービス 9
- 太陽光発電設備の導入 10
- 室内の昼光を活用 11
- 効率的なLED照明器具の採用 12
- 人感センサー点滅制御の導入 13



※基本設計時の計画であり、関係機関や広場エリアのにぎわい施設を整備するPark-PFI事業者との協議などにより変更となる場合があります。

6 ユニバーサルデザイン計画

基本的な考え方

- ユニバーサルデザインに配慮し、あらゆる人(車いす使用者、視覚障害者、聴覚障害者、知的、精神、発達障害者等、子供連れ利用者、LGBTQ、高齢者、外国人利用者)が使いやすい施設を目指す。
- 主要公共交通機関や紙屋町等都心部等の周辺から敷地までのアクセシブルルートに連携したアクセスを形成する。
- 広場と東側ペデストリアンデッキ、広場とスタジアム2階をつなぐスロープやエレベーターを設け、スタジアム2階各ゲート及び総合案内所へ円滑に誘導する。
- スタジアム内に授乳室、休憩室、救護室を分散配置する。
- スタジアムコンコースは、混雑時にも待機列により通路が塞がれることがなく安全に移動できるように、十分な幅員を確保する。
- 様々な利用者を想定したバリアフリートイレをバランスよく配置する。

スタジアムへのアプローチ

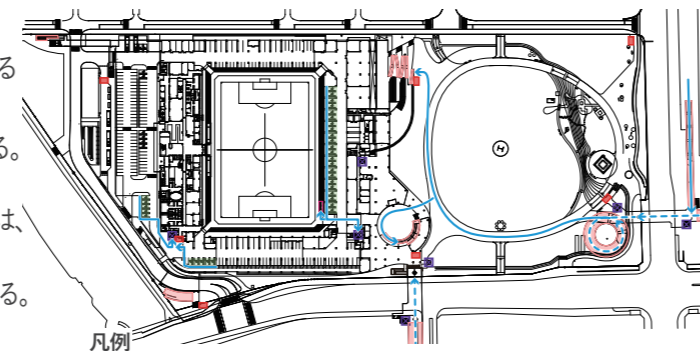
- スタジアム周辺、広場から各スタジアムゲート等までのアプローチは、段差のない計画とする。
- 4隅のスタジアムゲート付近に、緩やかな階段及びスロープを設置する。
- 来場者数が多いと想定されるスタジアムの南側に大型エレベーターを集中配置し、車いす使用者などの利便性に配慮する。

スタジアム内の移動

- 屋外動線及び屋内動線は、利用者にとって機能的で分かりやすく、安全性を確保するとともに、バリアフリーやユニバーサルデザインの視点に配慮した計画とする。

快適な観戦環境

- 車いす使用者席及び同伴者席は、水平・垂直的に分散して配置し、車いす使用者が様々なエリアから観戦できる環境を整備する。
- 3階スタンドの複数エリアに集団補聴設備を利用できる観客席を900席以上設ける。
- メインスタンドの4階にセンサリールームを設ける。心身状況の変化により休息及び休憩が必要となる場合に備え、カムダウンスペースを設置し、同伴者ととも利用できる専用トイレを併設する。



7 防災・避難計画

発災時における対応

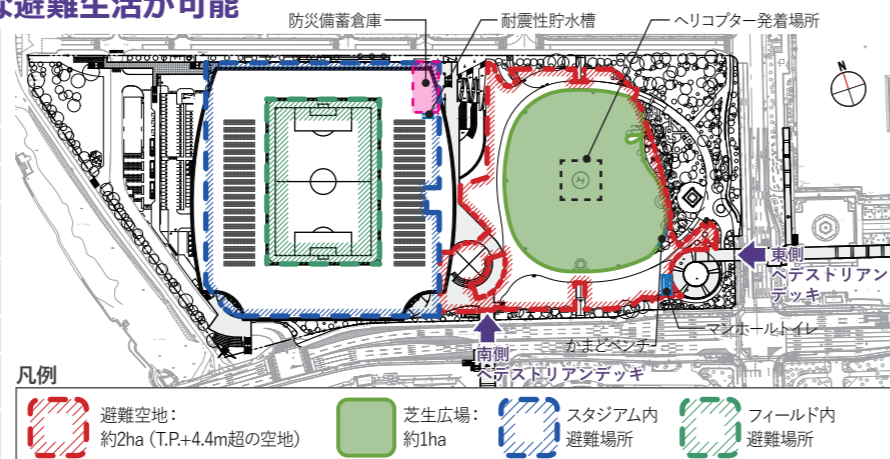
- スタジアムと広場が一体で、緊急避難場所として洪水や高潮などの風水害、地震、大火に対応し、発災から概ね3日間の避難者受入れ場所として整備を行う。

BCP対応統合型 BEMS※によるレジリエンス強化

- 災害時に予想される必要使用量を情報表示できる「エネルギー管理システム」を導入する。
 - 停電時に高機能BEMS※からBCPモードへ自動移行し、受水槽や排水槽の残容量管理を行う。
- ※ビルエネルギー管理システム(Building Energy Management System)の略称

インフラ途絶時も72時間の安全な避難生活が可能

給水	・上水系統の受水槽に緊急遮断弁を設け、給水管破裂による水源喪失防止 ・受水槽圧力低下で給水車が寄り付き、市水本管途絶時に給水可能
雑用水	・雑用水は雨水貯留槽から災害時にも継続して利用が可能
電力	・常用・非常用発電機による72時間運転
避難	・サインageに避難経路を表示し、聴覚障害者も安全に避難が可能
トイレ	・インフラ途絶時に避難者が3日間トイレの利用が可能 ・マンホールトイレの整備
ガス	・ガス設備は大地震に十分耐えられる中圧ガスを引込む
浸水冠水	・電気、発電機室は2階に設置し、機能停止を防止 ・1FLをTP+4.4m超とし、浸水に対応したレベル設定
EV	・火報連動、非常用電源に接続した避難用東側EVにより災害時も利用可能



8 広場エリア・ペデストリアンデッキ

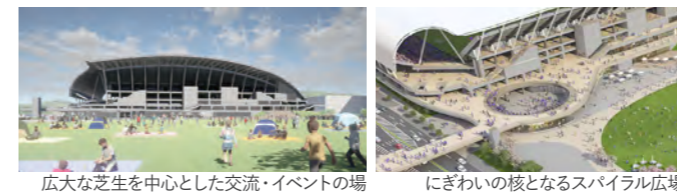
防災や環境に配慮した次世代の都市公園

A 芝生広場

- 東側広場中央に広大な天然芝エリアを設け、市民の憩いから多様なイベントまで幅広いニーズに対応する。

B スパイラル広場

- 立体的に構成し、人を迎えるにぎわいの玄関とする。
- スロープ・階段・ミュージアムエントランスで構成する。



C 広高の森

- 木々の木漏れ日がそそぐ、くつろぎの場と散策路を整備。葉音や鳥のさえずりが響く森と湿性の草花が咲く水辺など、豊かな自然に包まれ、心身共リフレッシュ出来る空間を創出する。

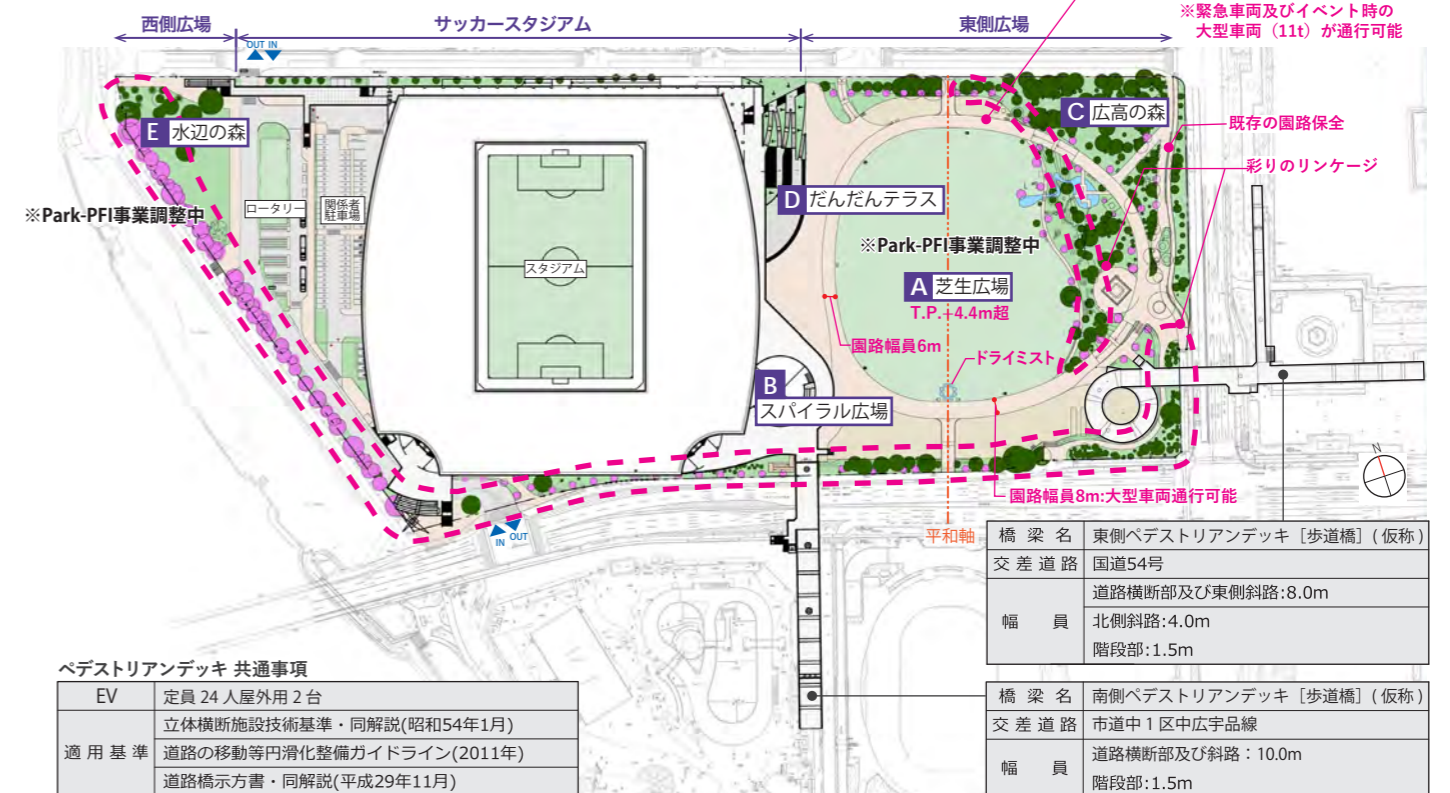
D だんだんテラス

- 広場を一望し、くつろげる段々状の丘とする。
- 丘の中腹に多機能化施設やオープンテラスを配置する。



E 水辺の森

- スタジアム西側のPark-PFI施設用地に「水辺の森」を計画し、本川沿いの親水空間とつながる憩いの場とする。
- 国土交通省が構想している基町環境護岸の整備構想と連携し、SUPヨガなどのウォータースポーツが楽しめるとともに、来園者が木陰で休むなど、ゆったりした時間を過ごすことのできる空間を創出する。



ペデストリアンデッキ 共通事項

EV	定員 24 人屋外用 2 台
適用基準	立体横断施設技術基準・同解説(昭和54年1月) 道路の移動等円滑化整備ガイドライン(2011年) 道路橋示方書・同解説(平成29年11月)

9 今後のスケジュール (予定)

令和3年度(2021)		令和4年度(2022)		令和5年度(2023)		令和6年度(2024)	
6~9月	10~12月	1~3月	4~3月	4~12月	1~3月	4~6月	7~9月
基本設計	実施設計	スタジアム工事開始	スタジアム工事	スタジアム完成	一部開業	全体開業	全体開業
	準備工事		ペデストリアンデッキ工事		ペデストリアンデッキ完成		広場エリア完成
					広場エリア工事		

※基本設計時の計画であり、関係機関や広場エリアのにぎわい施設を整備するPark-PFI事業者との協議などにより変更となる場合があります。